

報道関係者各位

令和5年2月7日

**西会津町と武蔵野大学アントレプレナーシップ研究所が  
包括連携協力に関する協定を締結**

西会津町（町長：薄友喜）と、武蔵野大学アントレプレナーシップ研究所（所長：伊藤羊一教授）は、令和5年2月7日、相互に連携・協力することに合意し、「包括連携協力に関する協定」を締結しました。今後は、「心豊かに、健やかで、やり抜く力を育む共育」を目指す西会津町と、「自分の思考と行動で、世界をより良い場所にできると本気で信じる人を増やす」ことを目指す武蔵野大学アントレプレナーシップ研究所が緊密な連携のもとに、西会津中学校におけるアントレプレナーシップ教育にかかる事業の実施に加え、教職員と研究者による相互の学びの実現や児童・生徒と学生の交流によるキャリア教育を推進し、相互の発展と持続可能なまちづくりに取り組みます。



## &lt;締結概要&gt;

期間：令和5年2月7日～令和6年3月31日（以降、自動継続）

- 連携協力事項：(1) アントレプレナーシップ教育（創造性教育）にかかる共同研究・事業の企画・実施  
(2) 教職員と研究者による交流および研修等による相互の学びの実現  
(3) 児童・生徒と学生の交流によるキャリア教育推進  
(4) その他、本協定の目的を推進する活動で双方が協議し同意した事項

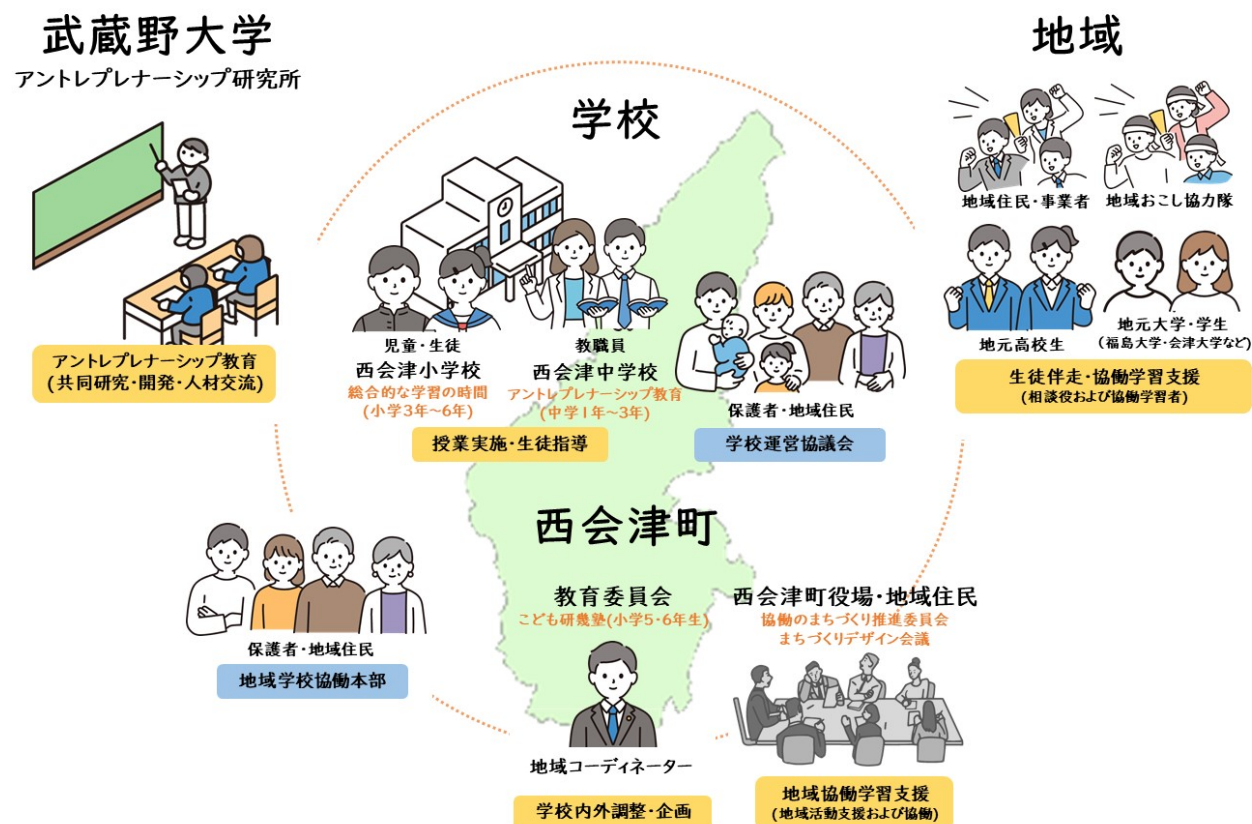
## 西会津町が目指す「アントレプレナーシップ教育」

西会津町は、「産官学民連携教育プラン」の特色ある教育活動として、アントレプレナーシップ教育を西会津中学校で推進してきました。また、令和2年度からは小中学校がコミュニティスクールとなり、学校運営協議会と地域学校協働本部を両輪として、子どもと地域の交流を促進し、子どもの非認知能力や郷土愛、生きる力を育むと同時に、学校を核とした地域づくりをしています。

今後、西会津町は次世代を担う子ども一人ひとりが夢や希望を持ち、その実現に向けて挑戦し、地域の資源を活用しながら、新たな価値を大人と一緒に創造する活気あるまちづくりを進めていきます。また、西会津町ではDX\*ならびに一人一台端末によるGIGAスクール構想の実現に向けた改革が進んでおり、学校だけでなく地域内外も含めたコミュニティとの学び・創造の機会により、さらなる個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指します。このような地域内外を巻き込みながら、子どもと大人が共学・共創していく学びの生態系の実現には、アントレプレナーシップ教育全体を俯瞰的かつ多面的に捉え、定期的なアドバイス・評価をし、共同研究・開発する第三者機関との連携が不可欠であり、武蔵野大学アントレプレナーシップ研究所との協定締結にいたりしました。

### ※Digital Transformation(デジタル・トランスフォーメーション)の略

情報通信技術を活用することで、サービスの提供の方法自体を改革すること。



【子ども】と【おとな】が共学・共創する地域社会を目指す。  
地域内外の様々な資源を活用したアントレプレナーシップ教育による“ひとづくり”による“まちづくり”

武蔵野大学アントレプレナーシップ研究所とは

武蔵野大学アントレプレナーシップ研究所（Musashino University Entrepreneurship Institute：MEI）はアントレプレナー（ヒト）、解決すべき課題の深堀り（コト）及びアントレプレナーシップ教育（教育手法）に関する研究を推進するため、2020年7月に開設。アントレプレナーシップを発揮していく人材輩出の研究等を通じて、本学のプラントステートメントである「世界の幸せをカタチにする。」に貢献することを目的としています。



・武蔵野大学アントレプレナーシップ研究所

[https://www.musashino-u.ac.jp/research/laboratory/entrepreneurship\\_Institute.html](https://www.musashino-u.ac.jp/research/laboratory/entrepreneurship_Institute.html)

西会津町とは

西会津町は「日本の田舎」の継承者として、古き日本の姿を守り、縄文文化、農村文化を伝える町です。福島県の西北部に位置し、周囲は東に喜多方市及び会津坂下町、南に柳津町、金山町とそれぞれ接し、北及び西は新潟県阿賀町と接し、会津の西の玄関口と言われており、「会津の霊地」信仰の里として古い歴史と美しい自然に恵まれた人情味豊かな町であります。西に越



後山脈が走り、北には磐梯朝日国立公園の雄姿、万年雪を戴く飯豊連峰が間近に望まれ、中央に電源の宝庫、阿賀川が13の支流を集めて西に流れ、日本海に注いでいます。それに並行して、磐越自動車道、国道49号線と磐越西線が横断しています。青い空と濃い緑、山と澄んだ清流が調和した、四季を彩る豊かな自然環境は、西会津の誇りです。気候は、日本海型に属し、夏は高温多湿ですが、朝晩は涼しく過ごしやすいほか、高温期間が比較的短くなっています。冬季間は平均降雪期間が128日で、平均最深積雪量が142cmの雪深い里でもあります。

・西会津町(自治体ホームページ)

<https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/>

## 西会津町のデジタル戦略とは

ケーブルテレビをはじめとしたこれまでの ICT のまちづくりを礎に、さらに一步踏み込んだ施策等を進めるため、日々進化するデジタル技術を有効に活用した地域課題の解決や行政サービスの向上、さらに移住定住の促進等を図るための戦略を策定しました。町や地域における様々な課題、問題の解決、町民の利便性と行政サービスの向上等を目的に、「思いやり」・「共創・共治\*」・「イノベーション」の3つを基本姿勢に、従来の考え方を変革し、ルールや基準等そのものから見直しを図り、町民本位の6つのデジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進しています。

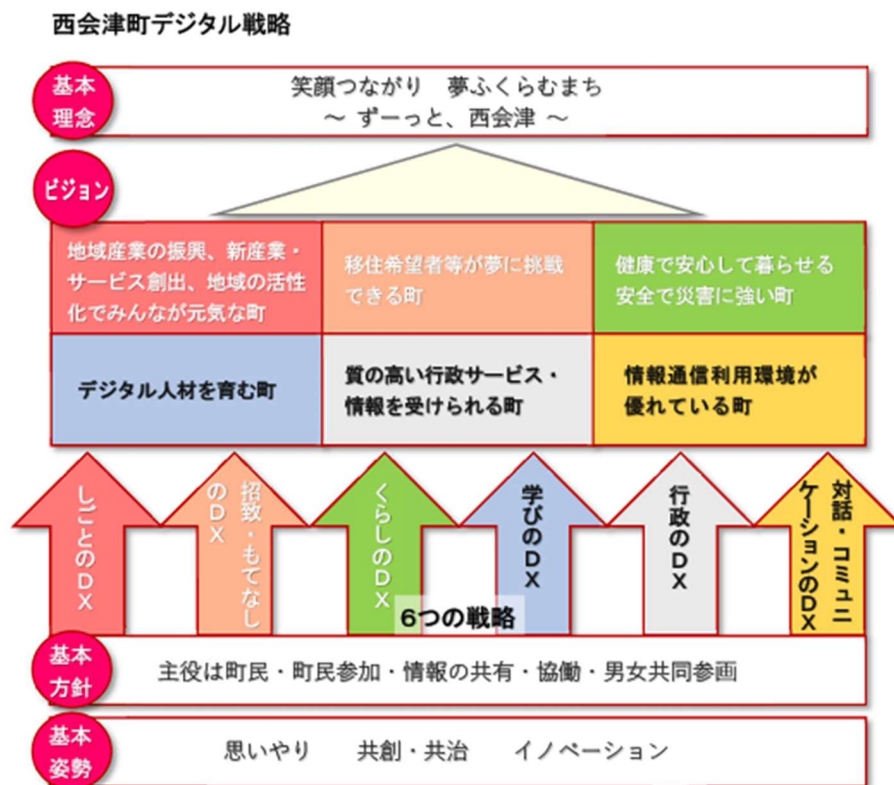
--

・西会津町デジタル戦略(令和3年3月策定)

<https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/uploaded/attachment/6056.pdf>

※共治：町民・企業・行政が同じ目線で協働により社会課題の解決にあたること。協治とも書く

図2：西会津町デジタル戦略の全体像



## 西会津町における GIGA スクール構想とは

平成30年度より小中学校の児童生徒に順次タブレット端末を配付し、令和2年11月には小学校1年生から中学校3年生まで全ての児童生徒への配付が完了しました。これに併せて学習ソフトを導入し、授業はもとより家庭学習や簡易テストにも活用しています。また、令和2年度には小中学校の校内高速無線LAN環境を整備し、11月には校内のどこでもタブレット端末が使用できる環境が整いました。さらに、70型電子黒板を小中学校の各教室や特別教室に整備し、デジタル教科書を使った授業の展開や見

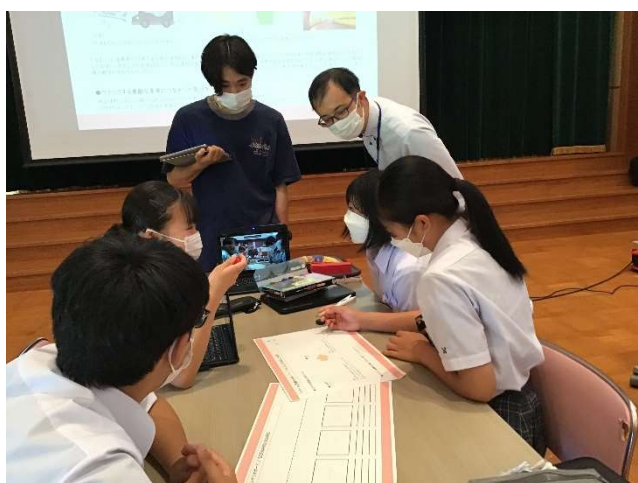
児童生徒が持つタブレット端末を併用した授業を行い、ICT機器を授業支援のツールとして最大限に活用しながら、児童生徒が主体的に課題を解決できる力を身につけさせるための「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を推進しています。



#### 西会津町のアントレプレナーシップ教育とは

西会津中学校では、「産官学民連携教育プラン」の特色ある教育活動として、アントレプレナーシップ教育を行っています。生徒が、限られた資源や地域の過去・現在を知り、同級生や地域内外の関係者と協働しながら、町の活性化に向けたアイデアを探求しています。生徒のアイデアは、町が進めている町民参加型プラットフォーム「デシディム」を活用してオンライン上に公開し、実現に向けて地域の意見を取り入れています。

生徒の新たな学びの力として取り組んできた結果、平成29年度に文部科学大臣表彰を受賞しました。



【報道機関からのお問い合わせ先】

西会津町教育委員会 学校教育課 担当：佐藤

TEL：(0241) 45-2216

FAX：(0241) 45-2235

E-mail：kyoiku@town.nishiaizu.fukushima.jp

武蔵野大学 経営企画部 広報課 担当：宇城、上別府

TEL：(03) 5530-7403

FAX：(03) 5530-3818

E-mail：kouhou@musashino-u.ac.jp